

地域の高齢者を救う 人命救助者に感謝状贈呈

人命救助功労感謝状贈呈式は8月29日、登米市消防防災センターで開かれ、人命救助に尽力した東和町米川4区の後藤孝さんと佐藤順一さんに感謝状を贈りました。

東和町米川地内で、6月2日に発生した住宅火災でいち早く現場に駆けつけた2人。住宅の中にいた、足が不自由な90代の女性を、協力して救出しました。鈴木消防長は「二人の適切な判断と行動力のおかげで、市民の命が守られました」と感謝の意を述べました。後藤さんと佐藤さんは「近所に住む者として当たり前のことをしただけです」と語っていました。



「女性が、いつも茶の間にいることは分かっていた」と話す2人。地域コミュニティの重要性を再認識する出来事でした。

経営の難しさを実感 市内の中高生が起業体験

中高生が起業、創業の一連の過程を体験する中高生起業体験プログラムin登米は7月30日から実施、8月6、7日に追町梅ノ木のウジェスーパー佐沼本店の駐車場に模擬店を設置し、かき氷やお好み焼きなどを販売しました。

市内の中高生15人が参加。3つのグループに分かれ、販売商品や事業計画の決定、資金調達など、市内の経営者からアドバイスを受けながら進めました。佐藤友人さん(佐沼高2年)は「結果的には、予定より売り上げましたが、自分たちの見込みとは違いました。商売は、予想通りにいかず難しいです」と話していました。



とつけもの(くじ引き)で、新鮮な野菜を売るなど、中高生ならではのアイデアが生かされていました。

全国コンビニで取得 コンビニで各種証明交付

登米市証明書コンビニ交付サービスオープニングセレモニーは9月1日、セブンイレブン南方支所前店で開かれ、関係者約20人が参加しました。

マイナンバーカードを使い、各種証明書などをコンビニエンスストアで取得できる「コンビニ交付サービス」。夜間や土日・祝日でもサービスが利用できます。

セレモニーでは、テープカットでサービス開始を祝い、布施孝尚市長がキオスク端末(マルチコピー機)を操作して、印鑑証明書を取得しました。取扱店舗は、全国のセブンイレブンとローソン、ファミリーマート、サークルKサンクスなどで利用できます。



マイナンバーカードを端末に置き、指示に従って画面を触るだけで簡単に取得できます。

運動で生まれる笑顔 オリンピックが本市集結

オリンピックデー・フェスタin いしのもりは8月11日、石森ふれあいセンターを会場に開催され、石森地区の子どもたちなど、約90人が参加しました。

訪れたオリンピック(オリンピック出場者)は富谷町出身の森田智己さん(競泳背泳ぎ)や三ヶ田礼一さん(ノルディック複合)など5人。「手つなぎ鬼」や「輪になろう」など4競技で、参加者と共に汗を流し、スポーツの素晴らしさを伝えていました。

参加した相澤七虹さん(中田町境堀)は「どの競技も楽しかったです。馬淵智子さん(ソフトボール)のプレーの話が参考になりました」と話していました。



森田さんは、オリンピックデー・フェスタ初参加。「初めての参加が地元宮城でうれしい」と話していました。

古里の魅力を再認識 異世代で市の魅力を発掘

登米市魅力発掘ワークショップは9月3日、市役所迫庁舎で開かれました。

市を全国にPRするシティプロモーションの取り組みの一環として実施し、市内高校生18人と24~43歳の一般24人が参加しました。このうち高校生は、4グループに分かれて、登米市の魅力のほか、市民の気質や生活面などを意見交換。

千葉茜里さん(佐沼高1年)は「自分の意見が、みんなと話し合うことで、より良くなることに驚きました。登米市が、いろいろな魅力を持ったまちだと気づきました」と古里の魅力を再認識しました。



登米市の特徴や魅力を、付箋紙に書き出し整理。自由な発想に、コーディネーターも驚いていました。

戦争の教訓を後世に 祝祭劇場で戦没者追悼式

登米市戦没者追悼式は8月19日、登米祝祭劇場で開かれ、遺族など約450人が参列し、恒久平和を誓いました。

黙祷後、布施孝尚市長は「私たちは恒久平和を強く願い、誤った歴史を繰り返さないよう、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に伝えていかなければなりません」と式辞を述べました。来賓の追悼のことばに続いて、参列者全員が献花をし、静かに手を合わせ戦没者3459人の冥福を祈りました。参列した金喜作さん(石越町第十三)は「戦争の悲惨さを、後世に語り継いでいくのが私たちの使命」と話していました。



白菊を備え、手を合わせる参列者ら。恒久の平和を亡き家族に誓いました。